

**第五期長期計画・調整計画策定委員会 傍聴者アンケート**  
**第3回実施分（平成26年10月10日開催） 自由記載欄**

**○ 今回の策定委員会で印象に残った、または興味のある議論や課題がありましたら記入してください。**

- ・今日は、各委員の前提条件をそろえるための情報提供であったととらえている。各々の専門性をふまえた論点の頭出しをもう少し聞きたかった。その中で財援団体について「存在意義を強化する機会を与えるべき」という意見に同感である。統合ありきではない。
- ・鋭い問題点の指摘でその後の対応が期待される内容でした。逆に長期計画の全部は読まないと言った委員がいた点に驚きました。時間との兼ね合いもありますが、大抵のことは何処かには書かれているので、読み込まないと前提を欠いた話をしてしまう恐れがあるかと。
- ・調整計画策定にあたっての市民会議からの報告の扱われ方に不満。四長調整計画の時の百名規模の市民会議とは比べるべくもないにしても、実際にまちで生活する市民が重ねた議論はもっと丁寧に扱い、きちんと反映していく努力をすべき。
- ・人口推計 高齢者人口は増えますが、それによる市の一般財源の負担の増加はさほど大きくありません。生活保護もさほど増えていません。人口微増によって市の税収増がしばらく続くのであれば（現状・増加傾向）、その分は子育て、貧困の連鎖対策にまわすべきと考えます。税収の変化、一方歳出面への影響についてももう少しつっこんだ議論が必要では。次回のテーマに「財政の状況」とあるので期待しています。
- ・「公共施設再編」の考え方の財政シュミレーションは古いものなので、最新のもので議論をすべきと考えます。
- ・計画をつくる過程で、「いろんな場に委員が出向いていく」という意見がありました。検討に値すると思います。
- ・「貧困の連鎖を断つ」という話がありましたが、障がい者・要介護高齢者と家族・ひとり親家庭・セクシュアルマイノリティ等、弱い立場の人への施策について優先的に検討していただけだと思います。

**○ その他、ご意見・ご感想などありましたら記入してください。**

- ・市民委員以外の委員が、武蔵野のことについてあまりにも知識がない印象をうける。そもそも、まちの中の課題について、行政側がまとめた課題集に添って考えようとする時点で、市民のリアルな課題認識との間に乖離を感じる。だからこそ、「市民会議」の中で出た議論をきちんと読み込む必要があると思うのだが・・・
- ・「歴史資料館」における「中島飛行機武蔵製作所」の拠いはどうなっているのでしょうか。また「中島一」については跡地である中央公園周辺に小さくても別館（分室）を設けるべきだと思います。
- ・「財援団体あり方検討委員会」の委員は全員市職員で、いわゆる「市民参加」がなく、第三者の視点・評価も入っていないのではないのでしょうか。このことを含め、各種委員会の構成はどのような基準で決められているのでしょうか。私としては、各委員会に市職

員・学識の方・公募市民が共に入り、意見を交わしていくことが良いと考えますが、いかがでしょうか。

- ・「討議要綱について」の議論が実質3回という予定だがあまりに議論が足りないのではないか。どのような要綱案を想定しているのか。大まかな論点のみということか。
- ・傍聴者にも資料が全部あり、読めたことが良かったです。市HP上でのアップも期待しています。